

## Waseda Vision 150 国際学院の将来構想の進捗状況報告

### 国際教養学部・国際コミュニケーション研究科の将来構想の進捗状況

#### ■2014年度報告

##### 《学部関連》

##### [1] 入試制度の抜本的改革

一般入試、AO（国内）などの入試制度の見直しに先立ち、国内指定校推薦入試、附属・系属校推薦入試及び転部入試について、制度内容及び出願基準などについての点検・見直しを行った。

##### [2] 海外学生リクルート

学部定員に対する正規留学生比3分の1の目標値は、回復傾向にある。今後、優れた留学生を安定的に確保し続けるために、留学生の出身国のさらなる多様化を図り、リクルート活動対象地域の重点化、日本語教育機関との連携強化、大使館・領事館へのアプローチ、国際的な教育認定機関等への加盟等の点に留意して海外学生リクルートの戦略を見直した。この結果、AO入試（9月入学）については、過去最高の志願者数を記録した（649名、前年度比129%）。

##### [3] メジャー制度導入

多種多様な科目を自由に履修することで幅広い知識を修得する一方、専攻に準ずる主たる専門領域をもつことで学修成果を対外的に示しやすくすることは、学生のキャリア形成において極めて効果的な措置である。学部将来構想検討委員会における継続的な検討を経て、2014年7月に原案が策定された。

##### [4] オナーズプログラムの設置

諸外国の多くの高等教育機関において確認されているオナーズプログラムの実態を検証し、優秀な人材に対応する教育プログラムの検討を行った。

##### [5] 箇所間協定の拡充

11の大学との箇所間協定に加え、優れた英語プログラムを有する非英語圏の大学との箇所間協定を増やすべく、School of Communication（香港バプティスト大学）、School of Journalism and Communication, Faculty of Social Science（香港中文大学）、The School of Business Management, and the Faculty of Economics and Communication（ビーナス大学）及びThe College of Business（ウタラ・マレーシア大学）と箇所間協定を締結した。

##### [6] 文部科学省 大学の世界展開力強化事業（AIMSプログラム）による学生交流の開始

本学とASEAN主要6大学（マラヤ大学、インドネシア大学、チュラーロンコーン大学、タマサート大学、デ・ラ・サール大学及びブルネイ・ダルサラーム大学）で構成されたコンソーシアムによる、インターンシップ、フィールドワーク及びボランティア活動等を組み込んだ学生交流プログラム（「AIMS7 多言語・多文化共生プログラム」）が2013年度に採択された。2017年度末までに派遣100名、受入75名にのぼる学部生の交流を実現させる。事業計画のとおり、2014年秋から第1期生として25名の早大生を1学期間派遣した。また、特別プログラムとして、同じく2014年秋から10名の学生を1学期間受け入れた。

## **[7] 第二外国語教育の拡充**

母国語・英語に加え、更にもう一つの第二外国語の 3 つの言語を駆使できるブルーリリングの養成のための方策を検討した。また、フランス大使館及びアンスティチュ・フランセ日本の協力により、フランス語修了証授与プログラム（French Studies Certificate Program）を構築した。フランス留学支援、留学奨学金及びインターンシップ等の修学支援が用意され、所定の条件を満たした学生には修了証明書が授与されるもので、2015 年度から実施される。

## **《大学院関連》**

### **[1] 国際コミュニケーション研究科博士後期課程の設置**

2014 年 4 月に国際コミュニケーション研究科博士後期課程設置の届出を完了し、7 月に設置の届出が受理され、2015 年 4 月 1 日での開設が認められた。なお、2014 年度は博士後期課程の開設準備のための年度のみならず、修士課程の完成年度でもあり、双方の教学及び学生生活上の環境整備を進めた。

### **[2] 大学院生の研究・教育への参画及び奨学金制度の拡充**

大学院生の研究・教育への参画や奨学金制度の拡充などの幅広い学生支援策について検討を行い、修士課程の学生についてはティーチングアシスタント（TA）として教育への参画を促進すると共に、博士後期課程の学生については国際学術院（国際教養学部・国際コミュニケーション研究科）助手としての嘱任可能性について検討を行った。

### **[3] 海外の大学院との連携強化**

博士後期課程の設置に合わせて、海外の大学院との連携を本格的にスタートさせた。香港バプティスト大学 Department of Journalism とは箇所間協定の締結に至った。

### **[4] 紀要編集・出版体制の充実**

国際コミュニケーション研究科の紀要「Transcommunication」について査読体制を整え、必要に応じて編集委員会に学内外の研究者・有識者を入れる査読体制を整備した。

## **■ 2015 年度計画**

## **《学部関連》**

### **[1] 入試制度の抜本的改革**

語学能力、客観的知識、暗記力だけでなく、論理的思考力や表現力のある学生の確保をめざして、一般入試においては、試験科目の点検や小論文の導入可能性について点検を行う。併せて、外部英語能力試験の活用も検討する。また、AO（国外）入試においては、今後、日本でも広がりつつある IB、将来、導入の可能性のある「達成度テスト」の結果を元に、高校の GPA、外部英語能力試験の結果、活動記録、志望動機・学習計画のエッセイを加えて総合的に判断する選考方法等を検討する。

### **[2] 海外学生リクルート**

2014 年度に策定した海外学生リクルート戦略の継続的实施に加え、入学センター（IAO）による GRP（Global Recruit Program）との協働・協調・役割分担により、教職員一体となってアジア地域以外、とりわけ欧米へのアプローチの強化を図る。

### **[3] コンセントレーション制度導入**

名称をメジャー制度からコンセントレーション制度に変更し、2016 年度からの導入を目的に、ワーキンググループを設置して実施案を策定している。なお、コンセントレーシ

ョン制度導入にあたっては、カリキュラムの再構築や人的資源の拡充が必要となる。特定分野における高い専門性をもち、かつ、地域研究等の、分野を超えた教育・研究も行うことのできる幅広い知識を有した人材の採用等、中長期の教員人事計画も併せて検討している。

#### **[4] オナーズプログラムの設置**

Waseda Vision 150 の革新戦略の一つとして大学が進めている、「グローバルリーダー育成のための教育体系の再構築」において開発対象として掲げているオナーズプログラムの構築及び推進に、学部として積極的に関与する。

#### **[5] 箇所間協定の拡充**

箇所間協定の更なる拡充を進め、国際教養学部生による留学先選定に際しての選択肢の多様化を図る。また、留学先では、英語での学習を継続しつつ、プルーリリングアルを目標に現地語の修得をめざす。

<箇所間協定締結予定大学>

College of Liberal Arts (デ・ラ・サール大学)、Faculty of Arts and Social Sciences (マラヤ大学)、College of Liberal Arts and Social Sciences (香港市立大学)、Department of Journalism (香港バプティスト大学)、St. Stephen's College (ニューデリー大学)、School of International Studies (ドレスデン工科大学)、Vesalius College (ブリュッセル自由大学)、LUISS グイド・カルリ大学、BA Liberal Arts (キングス・カレッジ ロンドン大学)、Faculty of Liberal Arts (ルンド大学)、BA Liberal Arts (タリン大学)  
なお、国際学術院とケンブリッジ大学 Faculty of East Asia and Middle Eastern Studies 間での研究交流協定締結の手続きを進めている。

#### **[6] 文部科学省 大学の世界展開力強化事業 (AIMS プログラム) による学生交流の実施**

2015 年春から第 1 期生として ASEAN 主要大学より 25 名を受け入れた。秋からは第 2 期生として 25 名の早大生を派遣した。9 月初旬にはタイにおいて、合同教職員会議及び第 1 期の派遣・受入学生による学生会議を実施した。2016 年 1 月には外部評価委員会を開催し、本事業の評価及びプログラムの更なる拡充に資する助言を受ける。なお、本事業の採択を契機に、東南アジア諸国の英語プログラム、また、欧州のリベラルアーツ系英語プログラムとの連携をめざす。

#### **[7] 第二外国語教育の拡充**

プルーリリングアルをめざすための第二外国語教育、留学期間を含め 4 年間継続して言語修得が行えるシステムの構築及びヨーロッパ系第二外国語科目の教育言語をすべて英語にすることについて、引き続き検討する。具体的には、第二外国語担当の教員及び語学教育検討委員会を通じて、第二外国語教育の在り方に関する検討を加速的に推進する。また、ヨーロッパを中心とした在日大使館との連携強化を図り、第二外国語教育拡充のための方策を検討する。なお、2015 年度は、昨年度に構築したフランス語修了証授与プログラム (French Studies Certificate Program) の実施年度であり、第二外国語教育拡充のモデルケースとして、プログラムの実施運営に着手している。

### **《大学院関連》**

#### **[1] 国際コミュニケーション研究科博士後期課程の完成年度に向けた体制整備**

2017 年度末での博士後期課程の完成年度に向けて、教学及び学生生活上の環境整備の拡充及び運営体制の整備を進める。

**[2] 大学院生の研究・教育への参画及び奨学金制度の拡充**

大学院生、とりわけ、博士後期課程の学生の研究・教育への参加の拡充、奨学金+研究・教育による賃金の獲得について引続き検討を行う。

**[3] 海外の大学院との連携強化**

博士後期課程の開設に伴い、海外の大学院との連携について引続き強化を図る。

以 上